

Art in Hospital

患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる

湘南にある入院できる在宅と医療のある介護

⑫⑥ クローバーホスピタル (神奈川県藤沢市)



神奈川・湘南地域に27年にわたり地域密着型の医療・在宅医療を展開している医療法人篠原湘南クリニックグループ。在宅医療のバックベッド機能と急性期病院からの患者受け入れの役割を担っているのが、2004年に開院したクローバーホスピタルだ。

クローバーホスピタルも同法人が在宅医療を広げる中から誕生した。これまでの経緯を振り返ってみよう。篠原裕希理事長は1988年に19床の有床診療所「篠原湘南クリニック」(現・クローバークリニック)を開院。その後、入院中の付き添い婦制度

が廃止されたため職員が看護・介護をする体制に切り替えたが、人件費がアップ。有床診としての経営が厳しくなったことから、97年に無床診に転換。同時にデイケアセンターをクリニック内に開設して在宅医療を手掛け始めた。2000年の介護保険法施行とともに訪問介護ステーションと2番目のデイケアセンターを開設し、在宅医療を本格化した。

クローバークリニックは12年に機能強化型在宅療養支援診療所の指定を受け、現在、常勤医4人、非常勤医10人を配置し、24時間・365日体制で約600人の在宅患者を診るまでになった。この間、



篠原理事長は高齢者の在宅患者が急性増悪した際の受け入れ先病院の不足を痛感、自ら病院開設を決意し、高齢者医療・終末期医療に特化したクローバーホスピタルの開院に至った。

当初は医療療養病棟と介護療養病棟からスタートしたが、医療政策の流れを見ながら、介護療養病棟を廃止したり回復期リハビリ病棟や地域包括ケア病棟へ転換したりした。12年には機能強化型在宅療養支援病院の指定を受けた。

「医療だけでなく、患者さまの退院後の生活を見据えて、看護職や介護職などのスタッフは基準よ

り多い人員を確保しています。また、病院負担で誤嚥性肺炎の予防を含めて口腔ケアサービスも行っており、『口の中をこんなにきれいにしてもらったのは初めて』と患者さまから感謝されています」と篠原理事長。

国が推進する地域包括ケアシステムの今後の展開をにらみ、今年11月にはリハビリに特化した介護老人保健施設を開設する予定で、「入院→リハ→在宅」という流れがスムーズになる。「地域に密着した“入院のできる在宅医療”“医療のある介護”の実践」という法人理念が完成形に近づいている。